高知港とその近くの船と港

会員　福冨　廉

コロナ禍が沈静化し、久々に故郷の高知へ行き、港を回ってきたのでレポートしたい。

１．浦戸湾、高知港、高知新港

（１）港のあらまし

浦戸湾は高知市の南側に拡がる湾口 140m 奥行 6km の細長い湾である。多くの川が注ぎ込んで１つの川になったようにも見える。湾口は細い上にほぼ直角に曲がっているので難所ではあろうが、我々のように船の航行を見る観点からはとても興味深い。湾内にはいくつかの島もある。

また、かつては造船業が盛んで、最盛期には大型造船所が４つ、高知重工、今井造船、新山本造船、高知県造船があったが、次々と廃業して、今は新来島高知重工１社で 3 万重量トン前後のばら積み船を中心に建造しているようだ。

高知港はその浦戸湾の最奥部にあり、かつては大阪方面や足摺岬方面への客船が発着し、その後のフェリー化の中では一時 7 隻もの大型フェリーが行き来して賑わいを見せたが、今は海上保安庁の巡視船と小型の貨物船中心の静かな港になっている。

浦戸湾（赤線は遊覧船の航跡）GoogleEarth 利用

一方、1998 年に供用が開始された高知新港は浦戸湾外の東側に新たに構築された 2 面 4 岸壁の人工港で、コンテナ用ガントリークレーン２基が設置されている他、クルーズ船ブーム以降、多数の客船が次々と訪れている。

高知新港・客船ターミナル
と「WESTERDAM」

街中に
このポスターが

（２）高知県営渡船

細長い浦戸湾の湾口近くに両岸を結ぶ渡船がある。高知県道 278 号弘岡下種崎線の一部の種崎～長浜間約 600m を 5 分で結ぶ高知県営の渡船である。かつては両岸の造船所の従業員等を中心に車も運んで賑やかだったようだが、1972 年に湾口に浦戸大橋がかかり、両岸の造船所も無くなって、今はただ１隻で人と自転車、原付バイクのみを無料で運んでいる。船は両頭型のフェリー「龍馬」（52 総トン、1991 年新山本造船所建造）で、西の長浜側を起点に朝夕を除くと１時間に１往復の運航である。ここは、四国八十八ヵ所巡礼の 32 番禅師峰寺と 33 番雪蹊寺の間の最短路となっており、この日も外国人のお遍路さん 3 人が利用していた。

高知県営渡船「龍馬」　種崎側より

（３）新高知市観光遊覧船

かつてはフェリーの入出港時に眺めた浦戸湾、何とか通航できる方法はないかと思っていたら、3～11 月の土日祝だけ（夏季等は平日も有り）運航される遊覧船があることがわかり、ちょうど週末でもあったため早速予約した。路面電車の終点・桟橋通五丁目電停からすぐの海上保安庁の桟橋脇から 1 日 3 便、約 80 分の遊覧である。船は「GENKI2 号」、150 馬力の船外機付きの乾舷の低いいわゆる川船で船首にも出ることができるが、他船の引き波等、波が少しでも来ると結構揺れる。まあ、私が始終立っているせいかもしれないが。

湾内遊覧は、南に向かって反時計回りに航行する。最初は西岸の島の間を通り、浦戸大橋をくぐった後、景勝地で有名な桂浜の沖に出る。坂本龍馬の銅像の他、桂浜を数 10m 先の海上から見られるなんて高知在住者にももっと勧めたいところである。復路は高知新港（この日は「セブンシーズ　エクスプローラー」が入港）を眺め、東岸の造船所群を見、やや上流にある市場付近まで遡った後、帰港となった。

なお、この遊覧船、3～4 月には乗り場から北側の川へさかのぼってお花見クルーズも実施している。

遊覧船「GENKI2 号」

新来島高知重工

浦戸大橋（高さ 50m スパン 230m）を湾口側から望む
高知港は橋の向こうの右奥、通過船は「第三寶祥丸」

中央が桂浜の坂本龍馬像（右端に浦戸大橋）

海から見る桂浜

高知新港の「SEVEN SEAS EXPLORER」

高知海洋高校の練習船「土佐海援丸」

海上保安庁の巡視船「とさ（PL08）」

海上保安庁の巡視船「さんれい（PS18）」

２．浦ノ内湾と巡航船

高知市内からバスで約１時間行った土佐市宇佐から西の須崎市にわたって東西に横浪半島が横たわり、その中に浦ノ内湾がある。以前は半島側に道路が無かったせいもあり、昔から巡航船と呼ばれる船が津々浦々を巡ってきた。今では道路が整備され、風光明媚で、海上で貝を食べさせる店等があって楽しいが、地元の人の足と言う点ではどうだろうか。

船は須崎市の東端の埋立という乗り場を出港し、湾最奥部の坂内または鳴無（おとなし）という乗り場まで１日３往復、片道約１時間の航海である。全部で９つの乗り場があるが、埋立と横浪に浮桟橋がある以外は船首付けで乗降する。鳴無まで乗船した私以外の乗船者５名は全て外国人のお遍路さんで全員１つ手前の横浪で下船した。船と並行して道路はあるが公共交通機関は無く、

ガイドブックに旅のアクセントとして紹介されているのかもしれない。また横浪から西へは最寄りの JR の鉄道駅まで約 10km を歩くしかなく、当初、同じ船で戻ることを想定していた私もその方が面白そうだと先まで歩いて行くことにした。

浦ノ内湾（赤線は巡航船の航跡）GoogleEarth 利用

就航船は「第五くろしお」（4.9 総トン、1980 年建造）と予備船「第一くろしお」、昔は自転車も乗せてくれたが、船や乗り場の様子から、今はそれは無いようだ。バスのハンドルのような操船設備が興味深かった。また、歩く途中で、昔の巡航船と思われる残骸に出くわした。「しらさぎ」と船尾にあるその船はどうするのだろうか。他でも時々見ることなのだが、FRP の廃棄問題の一つとして考えるべき事象かもしれない。

ちなみに、須崎市の中心に位置する須崎湾の須崎港は高知県の重要港湾の一つで石灰石の積出港としての役割の他、貿易取扱量が多い。

須崎市営巡航船「第五くろしお」　左は埋立、右は鳴無にて

須崎市営巡航船・予備船「第一くろしお」　横浪港にて

昔の須崎市営巡航船？？「しらさぎ」　鳴無近くにて

３．高知港のかつての船々

昔、高知港で撮影した 1970 年代前半の写真を次頁にいくつか挙げてみる。

浦戸大橋をくぐる「さんふらわあ」

浦戸大橋をくぐる「さんふらわあ２」左の写真の右端が現在の高知新港の場所

高知港に入港する「さんふらわあ５」

高知港に入港する「フェリーかつら」

「さんふらわあ」

「フェリーなにわ」

「とさ」